

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270201538
法人名	有限会社アニマート
事業所名	有限会社アニマート グループホームさわやか
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市瀬戸越町2-1788 (電話) 0956-41-0233

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平19年11月26日	評価確定日	平成20年1月31日

## 【情報提供票より】(19年11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤	7人, 非常勤 4人, 常勤換算 10人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	6,000円	
敷金	有( ) 円	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	76歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本内科、東歯科、久保内科病院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主要道路から一歩山手に入った場所に位置するホームの周囲は、小川や山等自然の景観が堪能され、直ぐ側を生活道路が通り車が往来し、日々の生活がそのまま延長されたかのようである。非常災害時の一時避難場所として増設されたテラスからは春は桜、夏はホテルが飛び交い、秋には柿が実り四季折々を居ながらにして楽しむ事が出来る。職員は“人のしている事を見ながら体で覚える”“自宅で暮らす事だけが幸せではない”と云うホーム長の考えを基に、大変だけども笑いあり泣く時もあるが意見を言い易い雰囲気の中で、職員同士が活発に意見を交換し合い教えあい互に成長しようとしている。親をホームに入れる事に心を痛めていた家族の方から、笑顔で幸せそうに暮らしている姿を見て良かったと言われた事や入居者が好きと云う思いと共に、仕事に対する誇りと自信を深めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①居室、脱衣場へ温・湿度計を設置し適切な調整を行っている②感染症対応マニュアルの作成、衛生管理チェック表を作成し実践している③生活歴・関心事・得意な事等個人因子を把握し具体的なアセスメントを行う④個別記録の記載方法について勉強会を行い、日々の様子が細かく記録されている
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム長が評価の目的や活用方法について説明し、職員で分担して話し合いながら自己評価を行い、管理者がまとめる際職員と話し項目についての説明を加えた。前回の外部評価結果に基づいて改善策を全職員で検討し、改善計画書を作成し取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 様子を見ながら入居者にも参加して頂き介護の状況についてやグループホームの現状、介護度の統計をお伝えし、積極的に参加して頂けるよう会議で出された意見に対し、ホームの取り組み状況や取り上げて欲しい内容をお尋ねしたり資料を予め配布している。出席者の意見を基にボランティアセンターへ依頼し、随時来て頂ける様になり幅広く楽しみが広がっている。ホームの考え方や活動内容等についての情報提供を継続的に行っているとは言い難いが、市・県窓口や主治医に相談し柔軟な対応を行ったり、市の委託により介護教室を定期的に行っている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族来訪時に暮らしぶりをお話する中で意見・苦情・不安等無いかお尋ねしたり、玄関にご意見箱を設置したり、外部評価の項目を基にアンケートを実施している。推進会議の時にも何かあれば何時でも言って頂くようお願いしたり、行事案内を郵送する時に意見・要望を書いて頂く用紙を同封し、お礼の手紙を頂いたりしている。ご意見等を頂いた時にはその都度対応し状況説明等行ったり、記録を回覧して情報共有し対応策を話し合っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 保育所との交流・町内の敬老会の食事会や観劇・町内夏祭り・公民館秋祭りの参加や、“赤道”行事でホーム周囲を利用者と共に草刈し、その他の川掃除等はホーム長がボランティアで行ったり職員が行っている。回覧板や地域の寄合に参加したり、野菜の種の交換や花が咲いた時におすそ分けをする等の近所付き合いをし、認知症・口腔ケア・食事について等ホーム主催の介護教室を開催し、ホームを訪れて頂ける機会にしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム長の妻の病気を機に帰省し介護をする中で“人間らしく楽しく余生を送らせたい”“あるがままに自分らしくあって欲しい”という思いを込め平成15年2月に開設した。地域密着型サービスの役割を考えると共に、理念が長いと言う職員の意見もあった為、全職員と話し合っ「地域の一員として、衛生的な環境の下、自己実現を目指す、あなたが主役です」と理念を作り変えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア会議や月2回の全体会議の時に全員で理念を唱和し、入居者が主役である、あるがままを受け入れるよう常に伝え、意見交換をしながら理念を確認している。職員自身”入居者が主役”と意識しており言葉の端々にも現れ、日々のケアの場面でも繰り返しの言動や希望にも寄り添い対応する等、実践の中で理念が活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所との交流・町内の敬老会・夏祭り・公民館祭りの参加や、誰もが通る道を地主と使用者が綺麗にする“赤道”行事でホーム周囲を利用者と共に草刈し、その他の川掃除等はホーム長がボランティアで行ったり職員が行っている。ホーム長の自宅が傍にあり町内会に入っている入居者もおられ、回覧板や地域の寄合に参加している。市の委託による介護教室やホーム長の知己を通して認知症・口腔ケア・食事について等ホーム主催の介護教室を開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長が評価の目的や活用方法について説明し、職員で分担して話し合いながら自己評価を行い、管理者がまとめる際職員と話し項目についての説明を加えた。前回の外部評価結果に基づいて改善策を全職員で検討し、改善計画書を作成し取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者・家族、市職員、公民館長、民生委員、ボランティアをメンバーとして2ヶ月に1回開催し、初めに入居者のご意見を聞いて、様子を見ながら疲れたら退席して頂くようにしている。外国や新聞等の情報を基に介護の状況についての情報、グループホームの現状やホームの介護度の統計をお伝えしている。会議への積極的参加を促す為に、会議で出された意見に対するホームの取り組み状況や、取り上げて欲しい内容をお尋ねしたり、次回の議題に関する資料を予め配布している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	心疾患と認知症がある入居者が手術が必要で本人の希望もあるが、病状悪化による入退院の繰り返しや年齢的にも手術が難しい状況の為、市・県窓口や主治医に相談し入院治療をすることができた。市の委託により介護教室を定期的に行っているが、ホームの考え方や活動内容等についての情報提供を継続的に行っているとは言い難い。	○	定期的に市町村窓口を訪問する際、暮らし振りや活動状況がわかる“さわやか便り”を持って行く事でホームの情報提供にもつながられる。ホームが抱える問題等についても積極的に相談・連携し問題解決や質の向上に取り組まれる事に期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の様子を写真に収め“さわやか便り”に掲載し、出納帳のコピーと領収書、請求書を一緒に送付し家族来訪時に暮らしぶりをお話したり、誕生月はキーパーソンや他家族にも写真を送付している。当・翌月の行事や予定、施設長のコラム等家族の方が楽しみにして読まれている様子が窺える。月1回の定期受診結果は葉の変更や体調に変化がない時でも、受診当日か翌日に電話で報告している。職員の異動についてはその都度管理者より紹介している。	○	職員の異動については遠方の家族の方には、その時々に応じて報告する事が難しい時もあり、今後“さわやか便り”に掲載し定期的に報告される事で家族の方の安心感をもつながる。今後の更なる取り組みに期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置したり、外部評価の項目を基にアンケートを実施し、頂いたご意見に対してその都度対応し状況説明等行っている。推進会議の時にも何かあれば何時でも言うて頂くようお願いしたり、行事案内を郵送する時に意見・要望を書いて頂く用紙を同封し、お礼の手紙を頂いたりしている。ご意見等を頂いた時には記録し回覧して、情報共有したり対応策を話し合っている。	○	頂いたご意見に対しその都度対応しているが、後は運営推進会議にも諮り意見を頂き、運営に反映されるよう更なる取り組みに期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	通所介護事業開設の為の退職以外に職員の離職はない。夜勤の翌日を休みにし十分に休息できる体制や夜勤が困難な職員もいるが、管理者が夜勤やおやつ作りを担当したり調理専門職員や基準以上の人員を配置し、入居者、職員、経営のバランスと云う考えから職員の働きやすさ、介護業務に専念できるよう配慮されている。先輩職員や管理者が悩みを聴いたり食事会等親睦の場を設け職員のストレス解消に努めている。新規職員と1か月の引き継ぎ期間を取り、情報提供や指導を十分に行っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の会議の時に新聞等の切り抜きや、介護・医療について新しい情報を提供したり、介護用品の必要性や効果、職員入職時には救急蘇生法等定期的な研修を行っている。認知症実践者・県や市町村主催・事業者協議会主催の外部研修、防火管理者講習等に参加し、伝達講習を行ったり資料の回覧や配布をし、ケアの現場に還元出来ている。段階的に力をつけていけるよう本人には伝えているが職員毎の研修計画は作成されていない。	○	職員毎のスキルアップについての構想としてはあるが、計画的な研修の取り組みとして書面に残していく事で、自己啓発にもつながっていく。今後の更なる取り組みに期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会・介護支援専門員連絡会等管理者・ケアマネジャー・職員が参加している。他ホームから訪問や見学等来て頂いているが、ホームからの訪問は受け入れについて等、管理者が訪問して依頼を行っている状況で実現できていない。	○	相互訪問の受け入れについて依頼をしている状況で、お互い気軽に訪問し交流できるようなシステムも必要ではないかと考えており、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が自宅や病院に伺う等顔馴染みの関係を作り、本人・家族や身寄りがない方には民生委員・町会長・ケアマネジャー・ソーシャルワーカーと一緒に見学に来られ、入居者や職員と談笑されたり、生活習慣・環境等の情報収集を行い会議で話し合っている。入居後は家族や顔馴染みの方に出来るだけ頻繁に訪問して頂き、安心して生活できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	天気や季節等を通じて色々な事を思い出された時や、日々の生活の中で言葉使い、歌の謡い方や野菜を植え付ける時期、外国で生活されていた方に英語の発音を教えて頂く等、積極的に場面作りをしている。入居者が好き、家族が好きと云う思いと泣いたり笑ったり、互いに支えあい学ぶ関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	皆が同じように“したいと思う事が出来る”を基本にして、生活歴・習慣・趣味等を出来る限り把握し、声をかけたり行動や表情から思いを汲みとり、希望の把握に努めている。言葉かけの仕方を変えたり物品を示したりして様子を観察し、どのような暮らしを望んでいるのか検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえ『その人らしく暮らし続ける』為の個別・具体的な課題・目標は盛り込まれているが、『地域で暮らす』という視点は盛り込まれていない方もいる。療養記録には日々の様子が細かく記録され、会議では職員の気付き等活発な意見が出され計画に反映され、日々のケアについても共有出来ているが介護計画には、重点的ケアに必要な項目については記載があるが、現在行われているケアの全てが記載されているとは言い難い。	○	日々おこなわれているケアの全てを計画に記載する事で、全職員のケアの方法や留意点を統一できる。更に介護計画に沿った視点で記録をする事で、評価・アセスメントがし易くなり計画の見直しにつながられる。今後の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな要望や変化が見られない時も、毎月のケア会議で全入居者について検討を行い、3ヶ月毎に計画を見直しているが入居者や家族の要望・状態変化が生じた場合は、設定した時期に関わらず臨機応変に見直しを行っている。見直しをした計画は職員が持っており、ケアの際に気付いた事を記入し会議の時に情報交換し計画に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者が看護師であり他に看護職員も配置し、何時でも連絡・相談が出来る医療連携体制を取っている。病院受診や外泊時の送迎、遠方から帰省する家族と自宅で集う為に車椅子で送迎したり、駅へ見送りに行ったりしている。入居の為の準備から引っ越し迄を手伝ったり、墓参り等の特別な外出支援を行っている。	○	自分らしく、遊んで過ごせる空間、住み慣れた場所で通所リハビリ的な感覚で、馴染みながら段階的に、安心した生活に移行出来る事を意識し、長期的な視点で地域に貢献したいと検討を始めた段階で、今後の取り組みに期待する。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関をお聞きし本人の思いを大切に、以前からのかかりつけ医での受療や事業所の協力医療機関で受療して頂き、必要に応じて専門医を紹介している。管理者が通院介助を行い信頼関係を築くよう努め、常に職員が通院介助を行っているが、すべてのかかりつけ医にいつでも相談できる状況とは言い難い。受診結果は定期報告時に行い変化がある時には速やかに報告しており、家族だけで介助された時も受診結果をお聞きし把握出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的には看取りをする方針で、入居時に“看取りの指針”をお渡しし意向を確認すると共に、日々の生活の中の本人の言葉等で入居者の意向を確認している。事業所で対応できる状況について、協力医療機関医師・かかりつけ医・関係する専門職や職員と話し合いを行っている。往診や管理者と職員の一人が看護職で24時間対応できる状況であるが、状態・家族状況の変化があった時等、遠方の方についても繰り返し頻回に話し合いを行っている。	○	本人の揺れ動く気持ちを記録に残し家族にお伝えし、本人・家族の思いを大切に意向を反映せ、関係者がその思いを共有し、終末期に向けて今を生きる事を支援できるよう、更なる取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人に通いやすい呼び名として“おかあちゃん”とお呼びする事もあるが、目上の方に対する尊敬の念を持って接し、誘導の声かけや介助時は自尊心・羞恥心に配慮しさりげなく行っている。入居者の繰り返し言動・記憶違いに対しても否定したり指導的な言動は取らないようにし、健康状態・ケアの内容等入居者の前で申し送りをしないようにしている。個人情報保護について全職員が理解し情報の漏えい防止の対策を徹底させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝、食事、レクリエーション等の日課は生活、リズムが取れるよう声かけ・誘導はするが、無理強いはず本人が希望する事を中心に、本人の意向に沿って行っているが、リハビリや運動等本人にとって必要な事は時間をずらして実施している。希望を表出されない時にも興味を引きそうな事を話し合い、諦めずに何度も声かけをしている。食事・入浴や家事等にかかり時間がかかる方も、健康に支障のない範囲で納得されるまでゆっくり最後迄して頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をお聞きし献立に反映したり、皮むきや根切り等の調理の下ごしらえの手伝いや、下膳や食後の後片付け等できる範囲が少なくなっている方も座って出来る事をして頂き、気分や体調の良い日は自分から出来るよう様子を見たり声かけを続けている。旬の食材や菜園で採れたもの、山菜摘みに行ったり食事制限がある方も器や盛り付けを工夫したり、職員も一緒に食卓に着いたり時折回転ずし等外食を取り入れ、食事が楽しめるよう支援している。	○	入居間もない方も生活に慣れて頂く事を優先しながら、家族からも情報を頂きながら利用者の出来る事を把握し、働きかけを継続し入居者の好みや力を活かしながら、食事を楽しめるような支援が更に充実されるよう取り組みに期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯をある程度決めているが体調に無理のない範囲で時間・湯温、順番・シャンプー・入浴剤の好みや、希望があれば毎日の入浴にも対応している。入浴準備をして頂いたり危険がない部分は職員も浴室の外に出て扉の外から様子を伺ったり、個浴や同姓介助等配慮している。菖蒲湯・ゆず湯や温泉に行ったり、入浴拒否時は“職員が下着を汚したので着替えませんか、娘・孫さんが来られますよ、マッサージをしましょう”等誘いかけを変えている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個別の役割・楽しみ事を持って頂けるよう好きな事をお聞きし、懐メロや水彩画・絵手紙・粘土細工・ちぎり絵・塗り絵やテレビ観賞や踊り、ゲームの時に盛り上がるように順位をつけたり、時には飴玉等の賞品がある等楽しみ事を支援している。英語を話される方に発音を教えて頂いたり、洗濯物たたみや調理の下ごしらえ等本人の気持ちや力を活かした場面作りを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周囲や自宅迄の散歩や買い物・ドライブ、本人の希望や彼岸の時に職員が声かけし、お墓参りに職員が付き添う等日常的に外出している。身体的に外出が困難な方や好まれない方に対を確保しも、気分転換や五感刺激として戸外で過ごす機会を確保、希望をお聞きしたり習慣や関心事等を踏まえて気持ちを察して対応する等、積極きに行っている。支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全と隔離の難しさを十分に理解した上で、玄関は施錠しているがボタンを押せば、中から自由に外へ出られるようになっている。職員が作業する場所や立つ向きを工夫したり、玄関等にセンサーを付けている。入居者の安全性・家族から“鍵を掛けておいて欲しいと云う要望を重視し、状況が変わらない限り現在の状況のままいく方針である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月会議の時に火事を想定した避難訓練のお知らせをし、参加者を募って『火事ですよ』と非難誘導終了迄の時間を測り、冷静に対応できるように訓練に取り組んでいる。運営推進会議で避難時の協力をお願いすると共に、地域の方に災害時の協力依頼は特にされていないが、非常通報装置や派出所・消防署と連携を取り、職員の連絡網もあり家族の応援を頂ける状況である。災害時の備蓄については特に準備されていない。	○	災害に備えたホーム内での備蓄を考えるだけでなく、ホームが地域の避難場所として提供される事も考え、職員と共に必要物品や必要量等の検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	美味しく食べられるように御飯にかけずに別皿に盛ったり、盛り付けや味付けを変える、好みの飲み物を把握し種類やおやつを選ぶようにしている。食事量や必要な飲水量が確保出来ているか確認し、定期的な体重測定・血液検査の結果から医師の助言を頂いたり、疾患に応じて書籍を使って勉強会を開き味付け等検討し、健康状態は維持できており現状では栄養士のチェックの必要性を感じていないが、今後必要な状況が生じた時に検討していく。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の一角にテーブル・椅子、植え木・生け花が飾られ思い思いに過ごせる場所が確保されている。広いリビングも西側は遮光カーテンで光が調整され、オゾン除菌脱臭機の設置・換気をする事で臭気の停滞に配慮されている。絵画や外出時の写真が飾られたり、ソファやひざ掛け・人形等が置かれ居心地良く過ごせる空間作りがされ、対面キッチンで職員は作業しながら入居者と談笑し常に皆が集っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・ワードローブはホームで準備されているが、馴染んでいる箆箆やベッド等個人で持って来て頂いている。人形・時計・家族の写真等が飾られ、その人らしい居室づくりがされ、仏壇を持って来られている方には、花や水替え等の支援を行っている。施設の入所の度に不安症状で入・退所を繰り返していた方も、永年生活を伴っていた猫と共にホームに入居された後は、安心して落ち着いた生活環境を維持できている。		